

第3学年 国語科学習指導案

ろ組 男子 19 名 女子 19 名 計 38 名

指導者 坂本 敬

1 単元 ほうこくする文章を書こう (教材「気になる記号」光村3年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第2学年「きろくしよう」の学習で、相手や目的を考えながら、書こうとする題材に必要な事柄を集めて書く能力を身に付けてきている。また、「文集を作ろう」の学習で、事柄の順序に沿って「はじめ・中・おわり」の構成を考えて書こうとする態度を身に付けてきている。さらに、疑問に思ったことを調べて、分かったことを分かりやすく書き表したいという願いをもっている。

そこで、本単元では、伝えたいことが明確になるように、段落の役割を意識しながら文章を書く能力や目的や必要に応じて理由や事例を挙げながら書こうとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「ほうこくする文章を書こう」(教材「気になる記号」)を設定した。

この学習は、知りたいことを文献等の資料を活用して調べたり、自分で立てた問いと、それに対する答えを明確にししながら文章を書いたりする「調べたことを報告する文章を書こう」の学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「気になる記号」は、日頃あまり意識せずに接している記号について調べたことを報告する文章と、問いを決め、追究する方法を考え、実際に調べて、分かったことを書くという、調査報告文を書く過程の説明で構成されている。疑問に思ったことを実際に動いて材料を集め、それらについて詳しく考えていく活動を行う本教材は、社会科の町探検や施設の見学などの報告、理科の動植物の調査報告等を行うことの多いこの期の子どもたちに適した教材であると言える。また、取材カードや構成表の書き方、文末表現や表記の仕方などが具体的に書かれており、報告文を書く手順を学ぶのにも適した教材と言える。

そこで、本単元では、自分が疑問に思ったことについて必要な事柄を調べ、分かったことを友達や家族に報告する文章を書くことを目的とする。その際、収集した材料の生かし方、段落の役割、段落の役割に応じた文末表現などに気を付けながら教材文の構造について話し合う活動を通して、報告文を分かりやすく書くための観点を明確にさせることが大切である。

具体的にはまず、普段の生活の中で疑問に思っていることを調べさせておき、それをどのように友達に伝えればよいか話し合わせることで目的意識や相手意識をもたせる。そして、調べたことを報告する手段として報告文があることを紹介する。そして、子どもたちがそれぞれ調べてきたことについて報告する文章の試行(試し作り)をさせ、もっと分かりやすい報告文を書けるようになりたいという課題意識をもたせる。

次に、限定された範囲の試行錯誤として、学級全員に身の回りにある記号について調べたことを報告する文章を書く活動を行わせる。その際、報告文のもつ構成や取り入れる要素について子どもたち自身に気付かせるために、様式の違う2種類のモデル文を比較させたり、作成した報告文を読み合って交流させたりする。その後、広い範囲での試行錯誤として、子どもたちがそれぞれ調べたいことについての報告文を作成させる。

さらに終末では、高まった「国語の能力」を認識させるために、試行(試し作り)の見直しを行う。その際、試行(試し作り)の段階よりも分かりやすくなった報告文を読み合って交流する活動を行わせたり、本単元で学習したことの活用場面について話し合わせたりすることで、国語を学習することの有用感を高めさせる。

このような学習を通して、子どもたちは、試行(試し作り)から学習の見通しをもち(計画性の向上)、課題解決のために柔軟にコミュニケーションを図り(協調性の向上)、「国語の能力」を身

に付け、実生活に生かしていこうとすることで（責任感の高揚）、高まった自分を認めること（自己肯定感の醸成）ができると考える。

これらの学習によって得られる能力や態度は、書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く能力や、書き手の考えの明確さについて意見を述べ合おうとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対してどのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。（数字は、人数を表す）

① 報告文について	
ア 読んだことも書いたこともある。(2)	イ 読んだことはあるが、書いたことはない。(5)
リ 書いたことはあるが、読んだことはない。(0)	エ 読んだことも書いたこともない。(31)
② 教材文を初めて読んだ感想	
・ 調べたことをまとめて報告するのは楽しそう。自分もやってみたい。(19)	
・ 難しい。分かりにくかった。(7)	
・ 矢印にいろいろな意味があることを初めて知った。(5)	
・ 矢印のことだけで文章が書けるなんてすごい。(4)	
・ 文章が、まとまりに分かれていて、読みやすかった。(3)	
③ 報告文の文章構造の理解	④ 報告文の文末表現についての気付き
・ 十分(3) ・ 不十分(35)	・ 十分(7) ・ 不十分(31)
⑤ 報告文を書くことへの興味	⑥ 報告するために調べたいこと
・ ある(36)	・ 生き物について(13)
・ 調べたことを知ってもらいたいから。(21)	・ 道路標識について(9)
・ 調べることが好きだから。(9)	・ 地図記号について(7)
・ 文章を書くことが好きだから。(4)	・ 乗り物について(4)
・ うまく書けそうな気がするから。(2)	・ 身の回りのマークについて(2)
・ ない(2)	・ 植物について(1)
・ どう書けばよいか分からないから。(1)	・ 家の周りの様子について(1)
・ 無回答(1)	・ 国旗について(1)
⑦ 難語句 ※複数回答	
・ 段落(24) ・ 報告(12) 事柄(4) きっかけ(1) 身の回り(2) 道路標識(1)	

子どもたちは、これまでに報告文を読んだり書いたりした経験が少ない。(①)しかし、教材として取り上げた報告文の内容に興味・関心をもっている。(②)また、報告文を書くことにも興味・関心をもっている子どもも多く、報告するために調べたいこともはっきりもっている。(⑤、⑥)しかし、各段落の役割や、段落相互のつながりといった報告文の文章構造や報告文でよく使われる文末表現に気付いている子どもは少ないため、これらのことにしっかりと目を向けさせる手立てを丁寧に行っていく必要がある。(③、④)難語句についても、段落、報告、事柄、きっかけといった報告文を書くという能力を高める際に理解が必要な用語が挙げられている。(⑦)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちが報告文の構造や書く手順をとらえ、調報告文を書く際に活用させるために（多面・総合、コミュニケーション）、学習内容や指導方法を次のように工夫することが大切である。なお、その際、子どもたち同士の話合いの場面を積極的に設定し、伝え合う過程で自分の考えを深められるようにする。

ア 学習の必要感をもたせるために（参加）、調べたことを伝える手段として報告文があることを紹介し、自分も書いて友達に報告したいという思いをもたせる。

イ 調べたきっかけを表す「それで、～を調べることにしました。」調べ方を表す「～という方法で調べました。」調べて分かったことを表す「～意味だそうです。」などの文末表現を意識させるために（多面・総合）、他の文種の文末表現と比較させていく。

ウ 学習に対する有用感や成就感を味わわせ、国語を学ぶよさを実感させるために（吟味）、試行（試し作り）で書かせた報告文と試行の見直しを行った後の報告文とを比較させたり、本単元で学習した「国語の能力」が、これから他教科等や日常生活におけるどのような場面で生かせそうか話し合わせたりする。

3 目標

- (1) 身近な事柄から題材を探すことに関心をもち、文章に書いて伝えようとすることができる。
- (2) 調べた複数の情報を比較しながら、自分の思いが明確に伝わるような報告文をまとめることができる。
- (3) 友達や家族に分かりやすく報告するという目的をもって、調べた事柄を段落を意識しながら報告文を書くことができる。

4 指導計画（全12時間）

※□は、日常生活や他教科等との関連を示す。

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす②	気になっていることを調べて報告するなんておもしろいそうだな。何を調べて報告する文章を書こうかな。	1 教材との出会い 「気になっていることを調べて報告しよう。」	○ 単元や教材への興味・関心を高めさせるために（未来予測）、日頃気になっていることについて発表させたり、報告文のモデルを提示したりする。
	うまく書くことができなかったな。調べたことを報告する文章はどのように書けばよいのかな。	2 試行（試し作り）課題解決の見通し ・報告文の試行（試し作り） 「調べたことを基に、報告する文章を試しに書いてみよう。」	○ 相手意識や目的意識をもたせるために（未来予測）、誰に向けてどんな報告文を書きたいか問う。
しらべる⑤	調べたことを報告する文章にどんなことを書けばよいかわかったぞ。	3～7 限定された範囲での試行錯誤 3 「調べたことを報告する文章には、どんなことを書けばよいのだろうか。」 ・2つの例文の比較 ・報告文の構成要素についての話し合い 4 「調べたことを報告する文章は、どのような組み立てで書けばよいのだろうか。」（本時） 5～7 「気になる記号について報告する文章を書こう。」 ・調べたことのカードへの記入 ・構成メモの作成 ・報告文の記述、推敲 ・作品の交流	○ 現時点での「国語の能力」をとらえさせたり、課題意識を明確にさせたりするために（未来予測）、報告文の試行（試し作り）をさせる。
	まず、ふだん気になっている記号について、報告する文章を書いてみるのだな。	8～10 広い範囲での試行錯誤 「自分が調べたことについて報告する文章を書こう。」 ・調べたことのカードへの記入 ・構成メモの作成 ・報告文の記述、推敲	○ 報告文の構成や文末表現について、子どもたち自身に気付かせるために（多面・総合・参加）、様式の異なる2種類のモデル文を比較させる。
ふかめる③	学んだことを生かして、自分が調べたことについて、報告する文章を書こう。	11 試行（試し作り）の見直し 「自分や友達の報告する文章は、分かりやすくなっただろうか。」 ・試行の報告文と完成した報告文との比較	○ 調べたことを整理したり、考察したりしやすくさせるために（吟味）、記号一つにつき1枚ずつカードに書かせる。
	学んだことを生かしたら、試し作りのときよりもずっとわかりやすい報告する文章が書けたぞ。学習してよかったな。国語って楽しいな。	12 活用場面の想起 「調べたことを報告する文章は、どんなときに書けるだろうか。」 ・他教科等や日常生活で活用できる場面の想起	○ お互いの作品のよさを伝え合わせ書くことの喜びを味わわせるために、（協力、コミュニケーション）お互いの作品を観点にしたがって読み合わせる。
ふりかえる・いかす②		調べて分かったことを報告する文章は、「調べたきっかけ」「調べ方」「調べて知らせたこと」「感想」の順序で書けばよい。	○ 学習の成果に気付かせるために、（吟味、多面・総合）試行（試し作り）で書いた作品と比較させ、変容に気付かせると共に、その変容は、どのようなことに気を付けることによってもたらされたのかを確認させる。
			○ 本単元の学習を価値付け、今後生きて働かせるために（つながり）、どんな場面で報告文を書くことができそうか、話し合わせる。

5 本 時 (4 / 12)

(1) 目 標

調べたことを報告する文章の構造について、モデル文の段落を並び替えながら調べる活動を通して、事柄ごとに段落を分けて書いたり、段落の役割に応じた文末表現を用いたりすることで報告文が書けるということを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

報告文は、「調べたきっかけ」、「調べ方」、「調べて分かったこと」、「感想」の順に書くと分かりやすいことを比較させながらとらえさせるために（多面・総合）、モデル文の段落を並べ替えながら調べさせる。そして、なぜその順序で書くとよいのかということを説明させる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 学習問題を確認する。 調べたことを報告する文章は、どのような組み立てで書けばよいのだろうか。	(分)	○ 課題意識を明確にもたせるために（未来予測）、段落をばらばらにした報告文を提示する。 ○ 前時の学習とのつながりを意識させるために（未来予測）、本時の学習でもまずは、それぞれの段落にどんなことが書かれているか考えることを確認する。
	2 学習の進め方を確認する。 ○ それぞれの段落にどんなことが書かれているか考える。 ○ どんな組み立てにすればよいか考える。	8	
しらべる	3 それぞれの段落にどんなことが書かれているか考える。 (1) 一人で考える。 この段落には、調べた方法、この段落には調べたきっかけが書かれているのではないかな。	10	○ 課題解決の見通しをもち、主体的に学習取り組みさせるために（参加）、学習の進め方を確認する。 ○ 報告文の共通性をとらえさせるために、前時の学習を想起させながら各段落の役割を考えさせる。その際、接続語や文末表現などに着目し、理由を明確にしている発言を称賛する。
	4 どのような組み立てにすればよいか考える。 (1) 一人で段落を並び替える。 (2) 友達と並び替えた理由を伝え合う。 (3) みんなで気付いたことを話し合う。 このような組み立てで書くと、分かりやすいと思いました。	20	⑧ 文章の組み立てを考えることができない子どもには、前単元の教材での学習を想起させる。 ○ 根拠を明確にした話し合いをさせるために（コミュニケーション）、自分の考えを説明する際には、必ず理由を述べさせる。 ○ 自分たちの考えの妥当性を検証させるために（多面・総合）、自分の考えに自信がない子どもにその理由を発表させ、その子どもを納得させる説明を他の子どもたちに考えさせる。
ふかめる	僕も同じ考えなのだけれど、本当にこの組み立てで書いた方が分かりやすいと言えるのかな。 納得してもらえるように説明してください。 それでは、この段落とこの段落を入れ替えて読んでみると、どうですか。		○ 分かりやすい報告文の構造を自分たちの力で発見できたことを振り返らせるために（吟味）、本時の学習の感想を発表させる。 ○ 本時の学習を通して身に付けた「国語の能力」を次時の学習に生かしたいという意欲を高めさせるために（協力、つながり、参加）、本時の学習を次時の学習にどのように生かせそうか問う。
	5 学習のまとめ 調べたことを報告する文章は、「調べたきっかけ」、「調べ方」、「調べて分かったこと」、「感想」の順で書けばよい。	7	
ふりかえる・いかす	6 次時の学習について話し合う。		